全教 豊中教職員組合

とよなか

教え子を再び戦場に送るな！ 2013年9月9日発行ＮＯ．５０８

〒561―0874
豊中市長興寺南3－5－2
TEL（06）6865－3190　FAX（06）6865-3191
Eメール　zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp
Webページ
http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/

子ども達の豊かな成長・発達のために皆で力を合わせましょう！

「はだしのゲン」閲覧制限問題

「描写が残酷」だからではありません
制限をかけた真相は！

・松江市で起こったマンガ『はだしのゲン』の学校図書館での閲覧制限が撤回になりました。

松江市教育委員会は手続きに問題があったとしていますが、手続きが問題であったのではありません。閲覧の制限をかけた理由も、「描写が残酷」という報道されているようなものでも実はないのです。

この問題の本質は市教委が侵略戦争否定の声・圧力に屈したこと、そして、学校図書館の運営に不当に介入したことです。

経緯は次のとおりです。市民から（しかも、松江市民ではありません）「天皇に対する屈辱、国家に対した間違った解釈、ありもしない日本軍の蛮行が掲載されている」と学校図書館からの撤去を求める市への申し入れや議会への陳情（昨年８月）がありました。

市議会では、この陳情を不採択（昨年12月）にしましたが、「子どもたちに間違った歴史認識を植えつける作品」＝『はだしのゲン』の撤去を求める〝市民〟からの申し入れが繰り返しあったのです。

市教委が閉架するよう動いたのは、そのような背景があったからです。教育委員会は学校長に２度（昨年12月、今年１月）にわたって、直接子どもたちの目に触れないようにと要請したというのです。

戦前の天皇制軍国主義の日本社会の中で、「戦争反対」を叫んだ父親が「非国民」と言われ、原爆によって父母姉弟をなくした中沢啓治さん。

原爆の悲惨な描写とともに、中国や朝鮮でおこなった日本軍の蛮行を描くのが「はだしのゲン」です。

自民党がめざす「憲法」になれば！

自民党が今めざそうとしている「憲法」になれば、『はだしのゲン』は憲法違反のマンガ＝国禁の書・マンガになりかねません。

自民党の憲法案では「日本国民は国旗・国歌を尊重」となっています。

「はだしのゲン」はまさしく非国民のマンガとなってしまいます。また、安倍首相はアジア・太平洋での戦争は侵略戦争とは認めず、自存・自衛の戦争だったとの認識です。アジアでの日本軍の蛮行や従軍慰安婦制度も本音のところで否定したいと思っています。

選挙で多数となり、憲法を変えることを本気に考える安倍自民党です。

日本国憲法のもと、多くの市民や国民の反対の声で閲覧制限撤回になりました。

『はだしのゲン』をこれからも自由に子どもたちが目にすることができる社会＝日本国憲法を守ることが重要です。

教職員の皆さんへ いまこそ学ぼう！

日本国憲法のすばらしさを学びましょう。あたり前に存在している憲法ですが、自民党の「憲法」になれば、どうなるのか、学びましょう。

核兵器なくせ！この声を世界に広げよう

2013年の原水爆禁止世界大会

広島・長崎への原爆投下から68年。被爆者が、自らの苦しみを通じて核兵器の残虐性を伝え、「核兵器をなくせ」と訴えつづけてきました。その声は世界に響きわたり、核兵器廃絶を求める世論と運動を築きあげてきました。

いま各国政府の間に、核兵器の非人道性を告発し、その禁止を求める流れが急速にひろがっています。

被爆70年となる2015年。NPT（核不拡散条約）再検討会議が開催されます。核兵器禁止条約の交渉開始を求める世論と運動が必要です。

「核の被害者をつくらせない」の願いをひとつに、原発の再稼働と輸出に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換を求める運動を強めることも大切です。核兵器と原発との危険な関係や放射線被害の実態について学んでいきましょう。

今年の世界大会にはアメリカのオリバーストーン映画監督も参加しました。

長崎での大会に参加した杉野さんの感想を紹介します。

世界大会に参加して

杉野　雄貴（桜塚小）

大会参加以前に、初の長崎ということもあり、楽しみにしていました。まず、参加人数の多さに本当に驚きました。会場に着くと、全国からすごい数の参加者がいて、圧倒されました。教職員以外の方もたくさんおられ、それにも驚きました。

大会は、会場の熱もあり、本当にあっというまでした。海外の参加者の真剣な演説、思い、各々がされている活動などをたくさん聞き、圧倒されっぱなしでした。でも、どの方も、思いや願いは一緒なんだな、ということを強く感じました。

夜は、大阪の参加者で交流会でした。色々な市町村、校種の方と交流でき、大会のことだけでなく、それぞれの学校でのお話も聞くことができました。楽しく、充実した会でした。

二日目は、青年交流の分科会に参加しました。総勢で700人ほどでした。その中で、7・8人のグループに分かれ、それぞれ、被爆者の語り部の方のお話を聞き、その後交流という流れでした。

僕たちのグループは、青木さんという80代の男性の方でした。

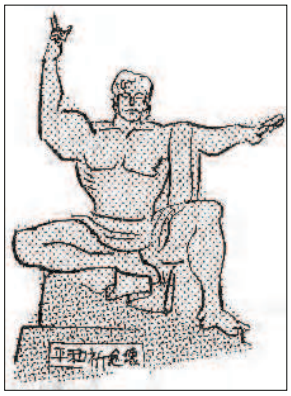
爆心地より1kmほどの場所で被爆されたそうです。背中にある、被爆の傷も見せてくださいました。

被爆時、その後の壮絶な体験を聞き、強いショックと衝撃を受けました。それと同時に、このようなことを、話を聞いた僕たちが、またいろいろな人に伝えていかなければならないな、と強く感じました。やはり、被爆された方は、高齢化で語り部の方も減ってきています。だからこそ、今回のように、聞いた僕たちが、伝えていく役割を担っていくべきなんだと思います。

僕の祖母も広島で被爆していますが、爆心地からは離れていたため、大きな怪我は追わずにすんだそうです。今回の青木さんのお話を、しっかりと噛みしめ、今後に繋げていきたいです。

夜は、長崎の教師の方との交流会がありました。全国の方が来られていました。そこでは、全国の方の話を聞くことができ、場所こそ違えど、思いは同じだと実感しました。

三日目は、閉会総会でした。すごい熱で、各地域ごとに、前に出られ、参加しての感想や、思いを言われていました。やはり、核廃絶という共通した思いを強く感じました。また、海外の方も発言され、核廃絶の強い思いを力強く参加者に伝えられていました。

核廃絶の強い思いなどに触れ、本当に勉強になりました。特に、やはり語り部の方の話は強く残りました。

今回の経験をしっかりと吸収して、噛みしめ、今後に活かしていきたいです。